年間授業計画　様式例

高等学校 令和7年度（１学年用） 教科　　国語　　科目 言語文化

教　科：国語　　科　目：言語文化　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　　組～　　組

教科担当者：

使用教科書：（ 言語文化　数研出版　　）

教科　国語　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けて、適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】考える力を身に付け、それを他者と伝え合う中で表現したり、考えを広げたりする力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】様々な文章を読んだり、味わったりすることを通して言語感覚を磨き、国語の力を伸ばそうとする態度を養う。

科目　言語文化　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当時数
			話・聞	書	読					
1学期	「児のそら寝」（宇治拾遺物語） 【古典の世界に親しむ】 【古典の知識及び技能を学ぶ】	歴史的仮名遣いに慣れる。 現代の言語文化に息づく古典の世界に親しむ。古語の品詞や活用について理解する。	○			歴史的仮名遣いを理解できる。 意欲的に本文を読み、古典に親しむことができる。古典を読むために必要な文語のきまりを理解できる。	○	○	○	6
	第１学期中間考査			○	○		○	○		1
	「羅生門」（芥川龍之介） 【登場人物の心情を捉える】	登場人物の心情の変化を場面の展開に即して読み取る。	○	○		本文の構成や場面の展開、表現の特色を捉え、登場人物の心情の変化を読み取ることができる。 作品に対する自分の考えを持ち、それを他者と共有することができる。 学習課題に沿って主題について考えることができる。	○	○	○	8
	古典文法「動詞」四段上二段下二段 【古典の知識及び技能を学ぶ】	古語の品詞や活用について理解する。		○		古典を読むために必要な文語のきまりを理解できる。	○	○	○	2
	第１学期期末考査			○	○		○	○		1
	古典文法「形容詞、形容動詞」 【古典の知識及び技能を学ぶ】	古語の品詞や活用について理解する。				古典を読むために必要な文語のきまりを理解できる。	○	○		2
2学期	「芥川」（『伊勢物語』） 【古典文化に親しむ】 「形容詞、形容動詞」	歌物語について理解する。 平安時代における夢の位置づけなど古典常識を学び、当時の人々の心情を読み取る。 現代に残る古語などの言葉に親しむ。古語の品詞や活用について理解する。	○	○	○	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景を理解できる。 叙述に即して登場人物の心情を読み取ることができる。 作品読解を通して自分の考えを述べる。古典を読むために必要な文語のきまりを理解できる。		1		9
	第２学期中間考査			○	○		○	○		1
	「サラバ！」（西加奈子） 【現代の小説を読み、読書に親しむ】	筆者の世界観や個性的な登場人物に着目しながら読書の面白さを味わう。 デジタルコンテンツ内の重要語アプリや漢字アプリを使用し一般常識力を養う。	○	○	○	語句の読みに注意して、本文を読むことができる。 登場人物の心情に着目できる。 意欲的に本文を読み、読書に親しむことができる。	○	○	○	5
	「徒然草」（兼好法師） 【鎌倉時代の随想を味わう】 【古典の知識及び技能を学ぶ】 古典文法「助動詞」	「徒然草」と作者について学ぶ。 随筆を読み、先人の思想に触れる。	○	○	○	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景を理解できる。	○	○	○	9
	第２学期期末考査			○	○		○	○		1
	「漢文入門」 【漢文の世界に親しむ】	訓読のきまりや熟語の構造を理解しながら、格言などの漢文の世界に親しむ。	○	○	○	漢文がもつ表現の特色に注意して音読できる。	○	○	○	3
3学期	「漢文入門」 【漢文の世界に親しむ】	訓読のきまりや熟語の構造を理解しながら、格言などの漢文の世界に親しむ。 韻など言葉の響きやリズムといった表現の特色に注意して作品を味わう。	○	○	○	漢文がもつ表現の特色に注意して音読できる。 格言について表現の特色に注意しながら理解できる。	○	○	○	8
	「故事成語」 【故事成語と現代の言葉とのつながりを理解する】	故事成語の由来や意味と、現代の言葉とのつながりを理解する。	○	○	○	故事成語の由来や意味と、現代の言葉とのつながりを理解できる。	○	○	○	6
	「城の崎にて」（志賀直哉） 【登場人物の心情を捉える】	表現に即して小説を丁寧に読み味わい、物語の展開を捉える。 明治以降の文学の流れや特徴などについて理解を深める。	○	○	○	本文読解を通して学習課題に取り組み、その成果を発表する。 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を文の中で使うことができる。	○	○	○	7
	第２学期期末考査			○	○		○	○		1
									合計	70